

## 平成26年度西宮市協働事業提案審査会 会議録（要約）

日時：平成26年4月21日（月）午前11時から15時30分

場所：西宮市役所 東館8階大ホール

出席者：【委員】直田 春夫（会長）、黒木 順子、川東 美千代、

石井 道信、染矢 洋

【事務局】市民協働推進課長 三村 嘉伸、

同係長 安座間 昌三、同主事 後藤 理恵、同主事 水間 由依

### 開会

市民協働推進課長より挨拶の後、委員紹介があった。

その後、プレゼンテーションの方法について事務局から説明。

### 事務局

1 提案につき15分を予定。事務局説明・提案者から補足説明PRで約5分、委員からの質疑に約10分。提案説明が終了すれば、退席は自由。会長進行で開始。

### 1 番目の事業「学生等による船坂地区の写真の保存・活用事業」について

#### 会長

事務局から説明を。

事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PRをお願いしたい。

提案者から事業の説明。

では、各委員からの質問をお願いします。

#### 委員

予算書の支出で印刷製本費13万とあるが2点質問を。冊子はどのように、場所はどこに配布されるのか。また、1冊400円で作成が可能なのか。

#### 提案者

冊子は、市内小学校と図書館へ配布予定。冊子の値段は印刷所に見積もりを取って参考とした。

#### 委員

市に聞きたい、写真は半公文書だと思うが、廃校時には公文書もあったと思う。それらの文書と今回の写真との関係はどう考えているか。

#### 市 情報公開課

公文書は基本的には保存年限が過ぎれば廃棄するが、資料として情報公開課等に引き継がれて活用されることもあり、今回の写真がそうである。

#### 委員

印刷費が安価過ぎると感じる。せっかく作るのであれば、今後冊子の質の点も検討していただければいいと思う。

委員

彼岸花を植えたということで、そちらも継続的に活動をしていただきたい。

会長

写真をデジタル化するだけでなく、地域との交流をしながらという点に意義があると思う。船坂の背景を探り、地域からも写真がでてくる等の展開があるかと思うので、がんばっていただきたい。結果は後日通知させていただく。

## 2番目の事業「苦楽園・夙川キャンドルナイト事業」について

会長

それでは、事務局から説明を。

事務局から事業概要の説明。

提案者から PR をお願いしたい。

提案者より PR あり。

では、委員から質問をお願いしたい。

委員

広告費 4 2 万円が多額ではないかと思われる。昨年の付帯条件として、将来は自立した事業実施を望むとさせていただいたが、例えば 4 課の発行物等に織り込んでもらえる等の工夫により、経費を節減でき、自立し易くなるのでは。

提案者

印刷物にあわせて、新聞広告も打っているので、経費がかかっている。4 年目以降は協働事業を実施している間にネットワークを作り、体制を確立させていきたい。市のコンテンツと一緒に実施することで、広がりが出てくればと考えている。

委員

今津に和ろうそくの有名な店があるが、キャンドルナイトということで、何か一緒にされたりはしていないか。

提案者

昨年度、冬にキャンドルサミットというイベントで、和ろうそくの方にも参加していただいている。

委員

地域が活性化することもいいが、観光客も呼べればいいと考える。客の推移は。

提案者

少しずつ増加している。

会長

それではこれまで、結果は後日通知させていただく。

### 3 番目の事業「今津地区まちづくりの担い手育成事業」について

会長

それでは、事務局から説明を。

事務局から事業概要の説明。

提案者より PR を。

提案者より PR あり。

では、委員からの質問をお願いしたい。

委員

イメージは分かったが、具体的に何をするのか。26・27・28 とスケジュールは違うことを記入しているのに、予算がまったく同一なのはなぜか。

提案者

スーパーで、作業所の製作したクッキーと一緒に販売することを計画している。販売経路などを考えて、販売していく予定。他の団体とともに、交流施設で交流したり、有償ボランティア体験をしてもらったりする。

委員

障がい者施設の活動をレベルアップするということか。

提案者

違う。

市 福祉のまちづくり課

障がい者への支援だけではなく、地域の中で、既存の事業を活かしながら地域福祉の担い手を育成することを計画している。予算書については26年度事業を実施してから、27年度28年度を計画していく予定にしていたため、仮で提出している。

委員

予算については分かったが、この事業提案はボランティアそのものではなく、地域の担い手を育成することを目玉としているのか。

市 福祉のまちづくり課

そのとおりである。

委員

それでは行政の事業そのものにならないか。

市 福祉のまちづくり課

そうではない。行政が画一的にやるのではなく、地域が担っていくことに意味があると思う。

委員

16回の報酬費はなんの講座をするためのものか。

提案者

離乳食教室、パン教室、手芸、キャラ弁教室など。

委員

それがどのように地域のボランティア育成につながるのか？

提案者

教室に来る人ではなく、教室を企画する側を養成しようと考えている。

委員

行政にたずねるが、NPO法人を設立するための費用を捻出しているかと考えていたが、講座の講師のための費用を捻出しているのか。NPO法人を作って人材を育てるという事業に見合っていないのでは。

市 福祉のまちづくり課

NPO法人の設立は、国と事業をするために設立することを目的としている。

会長

時間になったので、これまで。結果は後日通知させていただく。

#### 4 番目の事業「障がい者ジョブトレーニング事業」について

会長

事務局より事業説明を。

事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PRをお願いしたい。

提案者よりPRあり。

では、委員からの質問をお願いしたい。

委員

この一年での就労の実績は。

提案者

前年度は、就労実績はないが、就労体験をしてもらうことができた。今年度は就労継続支援施設B型作業所（B型作業所）と連携して、1名の一般就労を目指したい。

委員

就労支援の内容は？野菜の販売や、プラスチック製品の組みたてのみなのか。

提案者

地域の中でさまざまな仕事を体験してもらえるようにしている。得意なことがそれぞれ違うので、体験者に合ったものが提供できるようにしている。

会長

B型作業所の人件費は？

提案者

B型作業所の運営は別の団体が行っているので、予算には組み込まれていない。イベントなどを通して、支援して下さる方に対して、ボランティア謝金という形で考えている。作業所の方の給与という形では入っていない。

会長

B型作業所は別団体が運営しているとのことだが、もともとは提案団体から派生したのか。

提案者

そのとおりである。就労支援活動をしているうちに、地域から作業所が必要であるとの声が上がって、作業所が立ち上がった。

会長

B型作業所は、法人化されているのか。

提案者

そのとおり。

会長

障がい者への対応なので、多様であり、まちづくりとしては難しい課題ではあるが、力をつけていただくというのが今の段階だと思う。結果は後日通知させていただく。

## 5番目の事業、テーマ設定型

「誰もが安心して暮らせるすまいを～地域ネットワークと社会資源を活用して～」について

会長

それでは、事務局より事業概要説明を。

事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PRをお願いしたい。

提案者よりPRあり。

会長

つまり研究会をしたいということか。

提案者

研究会をして、具体的な事業を行っていききたい。

会長

では、委員からの質問をお願いしたい。

委員

前年度もテーマ設定型事業を提案し、「空家の実態調査及び空家活用の検討と今後の取り組み事業」を実施していたが、今年度との繋がり。また、市営住宅との関係は。

提案者

空家の調査の結果、活用できそうな物件がいくつかあった。相談にのってほしいとの声もあったので、今回のテーマに繋げていければと考えている。市営住宅ではなく、民間の住宅で考えている。

委員

行政に聞きたいが、市営住宅はどちらかといえば住居に困りがちな人を対象にしていると思うが、その意味では、このテーマとの共通性が高いと考えるが。

市：すまいづくり推進課

市営住宅は市営住宅で問題を抱えているが、今回の事業とは別だと考えている。

委員

一緒にやったほうが、より効率的ではないか。

市：すまいづくり推進課

これから事業をやっていく上で連携できる場所に関してはしていきたい。

委員

高齢者や障がい者などが安心して暮らせる住まいをとのことだが、このような人たちのニーズが明確にされていない。

提案者

25年度に実施した、ワークショップや研究会などで団体からニーズを聞き出しているのですが、これから研究会でニーズを拾い上げていく作業が必要になる。

委員

家を借りるにあたって、困っているという現状は把握しているのか。

提案者

実際にワークショップで聞き取りをすると、何件も貸家を回ってみたが借りることができず、安心して住めるような住宅ではないが妥協しているといった現状がある。

委員

解決する方策を提供していくということか。

提案者

解決していく仕組みづくりをしたい。大家さんからは、高齢者や障がい者などの人たちに対する理解ができていないから貸さないという意見があったり、また、福祉関係に携わっている人たちは不動産の仕組みに関して理解がなかったりする。そのような現状を解決していく仕組みづくりをしていきたい。

会長

ネットワークを作るということは、物件探しをしている人と、大家さんに対して働きかけをし、つなげていくといった理解でよいのか。

提案者

みんなで支えあいをしていくような仕組みづくりを提案していく。

会長

単なる紹介だけでは、商売との兼ね合いがあり困難かと思うが。

提案者

懸念はあるが、セミナーや講習会などで啓発に努めたい。

会長

セミナーや講習会の講師謝金は、どのような内容の講演会をお願いして、先ほどの懸念を解決していくのか。

提案者

講師は研究会にも入っていただき、研究会で出てきたことについて、きちんと講演できる様にさせていただく予定。また、相談会なども設け、住宅に関するさまざまなことに関して専門家などを集めて行っていく予定。

委員

高齢者が、住宅を借りるに当たって一番ネックになるのは保証人がいないということだが、その点については今後対策するつもりはあるか。

提案者

先日、神戸市でその仕組みができたと新聞に載っていたが、西宮市で取り組む際は仕組みを変えて取組んでいきたい。

会長

行政に聞きたいが、仮にこのような仕組みができた際には、行政として運用していくつもりであるということでのよいのか。

市：すまいづくり推進課

そのとおり。

会長

時間になったので、これまで。結果は後日通知させていただく。

6 番目の事業「子育て仲間作り応援事業」について

会長

事務局より事業概要説明を。

事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PR をお願いしたい。

提案者より PR あり。

では、委員からの質問をお願いしたい。

委員

予算についてだが、材料費が1回2万円は少し高額ではないか。

提案者

10組の参加者の食材に加えて、スタッフのエプロンなどの準備に必要なものも購入しようかと考えている。

委員

楽器とあるが、事業終了後は備品として置いておくのか。

提案者

そのとおり。

委員

会場はどこにするのか。

提案者

公民館などを考えている。

委員

「子育て園ぼかぼか」とは。

提案者

家庭的保育所にあたる。

委員

この事業と、本来事業である保育園との境目があいまいにならないか。

提案者

別の事業として考えている。「子育て園ぼかぼか」が母体として事業を行うが、会場なども切り離して企画しようと考えている。

委員

定員が、10組では少ないか。

提案者

定員については、まだ会場などをしっかり決められていないので、実際に事業を行う際には再考したい。

会長

主旨については良く分かるが、年4回では足りないのでは。また行政側に、今後の広がりについてはどのように考えているか。

提案者

これまで、月に1回程度保育室の開放を行ってきた。地域にこのような交流の場が増えているが、当事業ではここから一歩踏み出したい。参加者が受身になるのではなく得たものを同じように子育てに悩む人たちにも広げていけるような場にしたいと考えており、まずはきっかけを作りたい。

市：子育て総合センター

子育て親子の交流の場を提供するだけでも不安感が解消されるなどの効果が期待でき、保育に関するノウハウを持った団体に相談にのってもらえるというメリットもある。さらに、交流の場に出会った親子がその後も情報交換などの交流を続けていくことを期待している。市としては、この事業が成功すればモデルケースとして各地域に広げていきたいと考えている。

会長

では、これまで。結果は後日通知します。

7番目の事業「～名塩・東山台交流連携まちづくり事業～西宮名塩ルミ・パピエ事業（子ども紙すき絵画展事業含む）」について

会長

それでは、事務局より事業概要説明を。

事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PRをお願いしたい。

提案者よりPRあり。

では、委員からの質問をお願いしたい。

委員

昨年と、今年の実業内容の違いは、子ども紙すき絵画展が増えたところか。

提案者

そのとおり。

委員

絵画展だけで、倍の予算がかかると見込んでいるのはなぜか。

提案者

昨年は、兵庫県からの助成金がなかったので事業規模をかなり圧縮していた。今年、助成金があれば以前の規模に戻していこうと考えている。

委員

予算の中に委託料があり、今年度は予算を倍にしているが、なぜ倍の金額がかかると見込んでいるのか。

提案者

規模を大きくしようと考えているため。

委員

委託先は？

提案者

地元の企業に委託する。兵庫県から助成があったときには、今年度と同額だった。

委員

協働事業として、交流事業を行うということだが、今まで事業を行ってきて、名塩地域と東山台地域で交流が広がっているといった事例はあるか。

提案者

ともに活動することで、知り合いになれる。

委員

イベントが終わってからも、交流はできているのか。

提案者

そのように、広げていきたいと考えている。

委員

今まで、複数回されていると思うが、イベント終了後に交流の輪が広がっているといった具体的な事例はあるか。

提案者

今後の課題としていきたい。

会長

ここまでとする。結果は後日通知させていただく。

8番目の事業「誰でも食育先生による体験型食育講座（園児・保護者向け食育を楽しむ会・子育てママのための食育講座）」について

会長

それでは、事務局より事業概要説明を。

事務局から事業概要の説明。

では提案者から、事業説明、PRをお願いしたい。

提案者よりPRあり。

では、委員からの質問をお願いしたい。

委員

3年目だが、来年度以降はどのようにしていくのか。

提案者

健康増進課とも相談しているところだが、市内にある食育に携わる団体と連携することを考えている。

委員

3年間の食育先生と、参加者の延べ人数は。

提案者

参加者は2000人程。食育先生は200人程。

委員

1年目の反省点として、広報が上手くいかなかったとあったが、2年目は改善できたか。

提案者

はい。健康増進課と協力して、市政ニュースや新聞などで広報できた。

会長

食育先生というコンセプトがとても良い。食育先生が、地域に広がっていている例はあるか。

提案者

双子のお母さんや、70代の方など複数名。材料の発注の仕方や献立の立て方などを一緒に授業をしながら勉強してもらっている段階。

会長

運営になれてない方には、大学がバックアップしてあげられると良い。

提案者

大学の中でも活動が広がっていくように、働きかけていく。

会長

では、これまで。結果は後日通知させていただく。

## 第2部 審査 非公開

会長

各委員の採点結果について、意見交換を行い、最終的に審査会としての採択事業を決定する。まず自由提案型協働事業、「誰でも食育先生による体験型食育講座」について、各委員からの意見を欲しいしたい。

委員

- ・大学が中心となって、地域にも働きかけて取り組まれている事業であり、地域等の世界を広げている良い事業である。
- ・子育てに食育は重要であり、より広がりをもって実施されることを望む。
- ・協働事業としては最終年となるが、今後の事業の継続実施ができるように。

会長

次に「学生等による船坂地区の写真の保存・活用事業」について、意見を欲しいしたい。

委員

- ・船坂地区で、地元の方と学生等が共に活動をするのであれば、応援したい。アーカイブは時間も手間もかかるが、今回の資料は失ったら取り返しがつかないものであるため、支援するべきだと思う。
- ・提案団体は船坂地区で彼岸花を植えたりする活動もされており、これから船坂地区をどう持っていくかを考える際の方法のひとつとして評価できる。協働事業としてふさわしい先駆的な事業である。
- ・地域を盛り上げて地域を知ろうという活動は大事であり、地元がもっと活動すればいいのだが、学生の力を借りて活性化するのもよいと思う。  
西宮市在住の学生がもっとがんばってほしいと思う。

会長

それでは「障がい者ジョブトレーニング事業」について、各委員からの意見を欲しいしたい。

委員

- ・もう一步先に進んでがんばってほしい。就労にもっていくのは大変困難であるが、地域にそのような人がでてきて、接点ができると、相互理解になるのでよいのではないかと。
- ・就労が一人という目標が現実的である。
- ・就労一人とにかく出るまでは続けていけるような方策があれば。
- ・今年は専門の方が入るといふこともあり、しっかりやって頂きたい。応援したい事業。

会長

「苦楽園・夙川キャンドルナイト」について、各委員からの意見を欲しいしたい。

委員

- ・成果も出して、実行力もあるが、マンネリ化が心配。

- ・観光に寄与する面がでてくれば、観光の目玉になればよいのでは。
- ・まちの景観にキャンドルが合う。着眼点がいい。シーズン通してのイベントのひとつになる。
- ・予算の95万のうち50万以上が広報費となっているため、圧縮できないか。ポスター、チラシなど4課の発行物に載せていただく等して広報費を圧縮し、違うかたちで経費を使えばいいのでは。実施団体がHPを持っているということなので、そちらに重きを置いてアピールしていけばよいのでは。
- ・多様なメディアを使って効果的な広報を行っていただきたい。
- ・エコロジーという大きなテーマを押さえて、教育がましくなく、アイデアを出して実行してほしい。電気を消すのがかっこいいと思われるような。

会長

「子育て仲間作り応援事業」について、各委員からの意見をお願いしたい。

委員

- ・手を挙げる努力をされて、場をつくろうとする意欲を大事にしたい。子育て西宮の布石になる。
- ・1組2千円の材料費に驚いた。団体でも使える備品のために補助金申請をしたのではないかとと思うほどで、備品が気になる。
- ・同様の事業を知っているが、もっと金額が少なくても手作り等で実施している。
- ・園だけでなく、公共性が保てるかという点に気をつけて実施して頂きたい。
- ・事務用品の額が多額である。
- ・この事業は保育ルームの一室を使用して、いままでもできていた。
- ・対象人数が少ないのでは。本体の保育所の利用者を対象としているようにみえる。
- ・備品を本体の保育所だけでなく、オープンに活用するなど、事業実施以後も活用していただきたい。

会長

「今津地区まちづくりの担い手育成事業」と「西宮名塩ルミ・パピエ事業」が不採択となるが、各委員から意見をお願いしたい。

まずは「今津地区まちづくりの担い手育成事業」についてお願いしたい。

委員

- ・事業内容が明確ではない。目的としては良いが具体性がない。
- ・県民交流広場の助成がなくなって提案があった事業であるが、他の広場との明確な差がなく、内容的にも大差がないため、この事業を採択するのは難しい。
- ・難しいテーマを抱えすぎではないか。
- ・若手のボランティアの育成とつながらなかった。活動をやっていれば育成できるというのはちょっとちがうのではないか。
- ・担い手の育成は重要であるが、具体的にどのように、またどのような人材を育成するかという点が明確ではなく、再検討の必要があると思われる。それぞれの活動の成果はできているのだろうか、手を広げすぎたのではないか。

会長

「西宮名塩ルミ・パピエ事業」について、各委員からの意見をお願いしたい。

委員

- ・プレゼンターは予算的な事項を聞かれた際にきちんと回答できなければ、疑義を感じる。
- ・前年度助成金がなくても実行されているのであれば、自立して実行すればいいのでは。
- ・交流が継続できるようなしかけが必要ではないか。名塩和紙は全国的に見ても有名で、都市近郊でもあり、もっと活かして継承するといったことを前面に出して、観光化する等のアイデアがあればよかったのではないかと思われる。6回やって転機にさしかかっているのではないか。若手にバトンタッチする等のしかけが必要では。

会長

それでは、テーマ設定型に移る。「誰もが安心して暮らせる住まいを」事業について、採点結果は不採択となるが、各委員から意見をお願いしたい。

委員

- ・具体的なアクションが見えない。
- ・講座もどういう内容でどういう方向性でどういう効果を狙った事業であるかが見えない。
- ・高齢者、障がい者の住宅拒絶がなくなるかといった道筋が、これから研究するというだけでは事業として説得力がないのでは。
- ・市の市営住宅との関係が住宅政策として関連がないとは思えないが。

会長

それでは、審査結果について、事務局でとりまとめていただき、各委員にチェックをお願いした後、市に報告書を提出する。

以上で審査会を終了する。